

荒川流域エコネット地域づくり推進協議会 これまでの経緯

(1) 荒川流域エコネット地域づくりアクションプランの策定・推進経緯

平成29年度 推進協議会の設立

荒川流域エコネット地域づくり推進協議会（以下「推進協議会」）の設立

※WG設置に向けた調整等

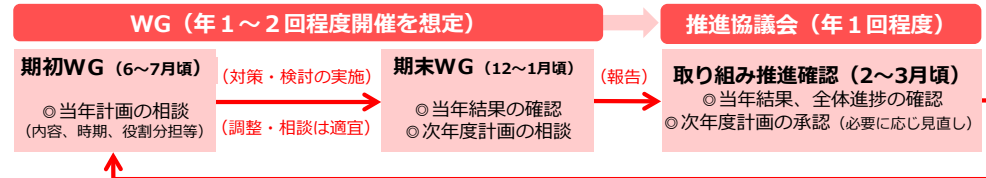
令和2年度 WGの設立・アクションプランの策定

- ◎荒川流域エリア・ワーキングの設置（学識者、市民団体、自治体、河川管理者）
⇒計3回のワーキング会議においてアクションプランの内容・役割分担について意見交換を行った。
- ◎第2回荒川流域エコネット地域づくり推進協議会を開催
⇒推進協議会においてアクションプランの内容を確認・承認。今後の取り組み推進に向けて期待することについて意見交換を行った。

※WGを継続してアクションプランに関する具体的な取り組みを進める
(第2回推進協議会にてWG継続のための「WG規約・委員名簿」の改定を承認)

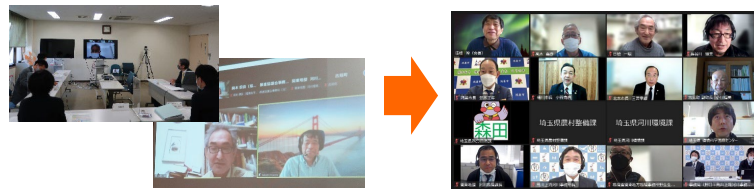
令和3年度～アクションプランの推進

- ◎WGを年2回程度（期初・期末）開催し、当年度・次年度のプラン実行計画を相談しながら取り組みを推進し、結果を協議会へ報告する。
- ◎協議会では、WGからの報告事項を受け、アクションプランの進捗状況を確認する。また、必要に応じて、次年度以降の実行計画や体制の見直しなどを検討するなどし、取り組みの推進を図る。



◎第5回荒川流域エコネット地域づくり推進協議会を開催

⇒令和4年度活動結果・取組事例の報告や取り組みの進捗確認を実施。今後のアクションプラン推進のため、今後の取組指標や埼玉県SDGs官民連携プラットフォームへの参加等が承認された。



◎第1回WG (令和4年7月7日)
◎第2回WG (令和5年1月18日)
◎第5回推進協議会(令和5年2月6日) WEB会議形式にて開催



※令和5年度以降のWGは、当年結果の確認・次年度計画の相談を、期末にまとめて1回実施するなど、効率化を図っていくことも想定する。

荒川流域における「エコネット地域づくり」の目標達成

(2) アクションプランの目指すもの

1) 取り組みの目標

- コウノトリ、トキを指標とし、河川及び周辺地域における治水と調和した水辺環境の保全・再生によるエコロジカル・ネットワークの形成、また、それらを活用した地域振興・経済活性化を推進すること。

2) アクションプランの位置づけ

- 本取り組み目標達成に向けて、今後10年で、地域関係者がそれぞれ、あるいは連携・協力して行っていくとする取り組みについて、地域関係者による意見交換のうえとりまとめたもの。
- 協議会関係者が、可能な範囲で、連携・協力・調整するなどして推進していくことを想定する。
- 5年程度で取り組み状況を確認し、成果や課題を踏まえ、必要に応じて計画を見直ししながら、推進していく。

(3) アクションプランの内容

1) 生物の生息環境保全に関するプラン

プラン	取り組み内容(例)
(プラン①) 合同生きもの調査の実施	◎関係者各自で実施している水辺の調査を、連携・協力(相互参加や技術交流等)により盛り上げます。 ◎関東エコネットで公表されているコウノトリ採餌量調査の手引きを活用するなどし、各地域の河川・農地における統一した手法による調査実施を支援します(調査体験会の運営補助や機材の貸出し等)。
(プラン②) ゴミ・外来種問題への対応	◎関係者各自で実施している清掃活動(プラスチックごみ対策など含め)や外来種駆除対策を、連携・協力(相互参加や技術交流等)により盛り上げます。 ◎清掃時等にも活用できる外来種駆除の手引きを作成・配布するなどし、各地域の河川・農地における外来種対策を支援します。
(プラン③) 環境学習・観察会の推進支援	◎関係者各自で実施している環境学習会や自然観察会を、連携・協力(相互参加や技術交流等)により盛り上げます。 ◎本プランで挙げた指標種・シンボル種の学習・観察会の実施を支援(開催の運営補助やテキストや機材の貸出し等)します。
(ベースとなる取り組み) これまでの活動継続	協議会関係者が、河川や農地、里山林、公園等でこれまでに実施してきた各種取り組みを、それぞれ、引き続き推進する。

2) 地域振興・経済活性化に関するプラン

プラン	取り組み内容(例)
(プラン④) 各種広報の展開	◎関係者各自で実施している環境関連の催事や拠点等を、連携・協力(相互参加や技術交流、エリア共通カレンダーの整理等)により盛り上げます。 ◎荒川流域エコネット地域づくりの取り組みや、地域の活動・魅力に関する広報を推進(ロゴマークやPR資料の検討・作成、それらを活用した行事出展等)します。
(プラン⑤) エコツアーの推進支援	◎関係者各自で実施している観光振興の対策を、自然の恵みを活用して支援します。 (例:自然観察スポット、特産品(コウノトリのエサ資源にもなるドジョウ等)、サイクリング・ウォーキングマップ等の関連情報の収集・整理・発信、観光スポットの生態的な価値に関する情報提供、自治体同士の連携によるスタンプラリー、森林セラピー等)
(プラン⑥) 関係者間のネットワーク支援	◎さまざまな場所・機会において、個人や市民団体、企業、自治体等の地域関係者間の連携促進を図ります。 (例:流域情報の収集・整理・発信、交流会・発表会や人材紹介による地域関係者同士の連携・交流の促進、情報共有のためのSNS活用等)
(ベースとなる取り組み) これまでの活動継続	協議会関係者がこれまでに実施してきた、環境に配慮した地域振興に関する各種取り組み(観光・商業・地域連携等)を、それぞれ、引き続き推進する。

推進協議会 (WG) の取り組みとして関係者が連携・協力して進める

(4) ロードマップと役割分担

項目	方策	ロードマップ				役割分担 (イメージ)					
		2021年→	2025年度	2026年→	2030年度	市民団体・等	自治体	県	河川管理者	研究者	事務局
関係者協議	荒川流域エコネット地域づくり推進協議会	●	●	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎
アクションプランの推進	これまでの取り組みの継続	●	●	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	○
	① 合同生きもの調査の実施	●	●	●	●	◎	◎	■	◎	■	○
	② ゴミ・外来種問題への対応	●	●	●	●	◎	◎	◎	◎	■	○
	③ 環境学習・観察会の推進支援	●	●	●	●	◎	◎	■	■	■	○
	④ 各種広報の展開	●	●	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	⑤ エコツアーの推進支援	●	●	●	●	◎	◎	■	■	■	○
	⑥ 関係者間のネットワーク支援	●	●	●	●	■	■	■	■	■	◎

2030年の目標年度に向けて、段階的に進め、2025年度に取り組み内容を振り返り(中間とりまとめ)、必要に応じて計画見直しを行い、荒川流域エリアのエコロジカル・ネットワークによる魅力的な地域づくりを進めていきます。

◎:実施主体、○:連絡調整、■:連携・協力

(5) 推進協議会・エリアワーキング会議の開催経緯（主なご意見等）

①令和4年度第1回 荒川流域エリア・ワーキング

令和4年7月7日（木）9：30～11：30 / 荒川上流河川事務所会議室・Web会議 併用

- 調査体験会を季節毎に開催し、季節による生きものの違いを見せることができると面白いのではないかと。
- ゴミ問題の関心を高めるため、集めたゴミを分類し、結果を発表する機会があるとよいのではないかと。
- ナガエツルノゲイトウが荒川流域にも侵入する恐れがあるため、啓発用パンフレットを作成するとよい。
- 埼玉県内の特定外来生物クビアカツヤカミキリ分布などのオープンデータを活用していただけるとよい。
- 自然再生に取り組む人たちや行政などの関係者が協力して取り組んでいることや、思いを伝えていくことも大切であるため、取り組みがみんなに理解してもらえるコンテンツがあるとよい。
- 若い人を引き込むために重要なのは、世界的な話題にもなっているプラスチックとSDGsについてわかりやすく取り組みに盛り込んでいくことである。
- 天空の里をうまく利用して、市民のみなさんと一緒に勉強できる場を設けられるとよい。
- アンケートで「生きたコウノトリをみたことがあるか」を調査し、数字が増加していけば理解者が増えたと評価することができるのではないかと。
- 広報について、ターゲットは小学生と明確に絞ったうえで資料作成するのがよい。
- Google マップは利用価値があるため、うまく活用すれば地域活性化に繋がると期待できる。

②令和4年度第2回 荒川流域エリア・ワーキング

令和5年1月18日（木）14：00～16：00 / 荒川上流河川事務所会議室・Web会議 併用

- 特定外来生物の問題も大切だが、飼育した動物は最後まで飼うという意識を強めていくことが必要になると思う。そうした観点を広報活動に取り込んでいくことはいかがか（品種改良したメダカ類の飼育放棄や、国内外来種に関することなど）。
- 取り組み評価軸のうち「関係者間の連携・交流」の回数について、各市町で開催している行事等に本協議会が参加・協力した場合などについても、交流の機会に含めてよいのではないかと。
- サギ類が集まってくるような場所でないコウノトリも生きていけないと思う。ぜひコウノトリ以外の種も対象とした観察会を開催するなど、取り組みを広めていければよいと思う。
- 自然環境に関する話題だけでなく、歴史・文化に関するものも含めて取り組みを進めていけるとよい。
- 海外からの旅行者向けなど、WEB(携帯端末)を活用した広報を展開していけるとよい。情報発信にはエリア外の情報も含めてよいのではないかと。



第5回 荒川流域エコネット地域づくり推進協議会
(令和4年2月6日（月）開催)



令和5年度第1回 荒川流域エリア・ワーキング
(令和5年8月2日（月）開催)

③第5回 荒川流域エコネット地域づくり推進協議会

令和5年2月6日（月）13：30～15：30 / Web会議形式（Zoom）

- 魚類などの川の生物や生態系を地域連携で豊かにすること、エコネットとグリーンインフラとの関係をしっかりと検討した上で事業に落とし込むといった観点で議論を進めてほしい。
- 国交省と自治体の連携・協働による流域治水を進めていくことについて、どのくらいの治水効果が発揮されるかを見積もっていく必要があるのではないかと。荒川流域でも科学的に議論できるような形にしていくべきだと考えている。
- プラスチックごみによる生物環境への悪影響について市民に啓発を進めるほか、外来種の中でも被害が深刻となっているアライグマについて、地域連携の枠組みのなかでも対策を進めていきたい。
- 埼玉県はアライグマの被害が深刻なため、アライグマ防除実施計画を策定し、県と市町村が連携して防除を進めている。捕獲の際には位置や性別の情報を提供いただき、それを基にアライグマ生息ポテンシャルマップを作成しているため、皆様にも参考にさせていただきたい。
- アライグマは見た目がかわいい動物であることから飼育を始めたが、飼いきれずに放してしまったことが、今のように広がった問題の一因になったともいわれている。アライグマに限らず、子どもから親世代まで、多くの方々に飼育における責任を理解してもらう必要があるかと思う。
- コウノトリの放鳥自体というよりは、コウノトリが生きていける環境があるということの大切さを、このエコネットの取り組みを通して皆さんに伝えていなければいけない。
- 子どもを対象にした調査会などのイベントを開催することは大切だが、参加者が30人程度は少なすぎる。コロナ禍で難しいとしても、参加人数を増やしていくことが必要かと思う。
- 川の氾濫により財産や田畑が流されてしまうということへの対策として、治水の取り組みが行われていると意識すること、さらに、それがコウノトリ野生復帰の取り組みにも寄与するのだ、というような、ある意味、逆転の発想で水災害意識を高めてもらうための取り組みが必要ではないかと。

④令和5年度第1回 荒川流域エリア・ワーキング

令和5年8月2日（月）13：30～15：00 / Web会議形式（Zoom）

- アライグマやミドリガメ等の外来生物に責任はなく、持ち込んでしまった人間に責任があることについて、難しいところではあるが、この問題点をしっかりと伝えていく必要がある。
- 推進協議会で作成した缶バッジ等のイラストをフリー素材にして活用してもらおうようにすると、ミドリシジミやサクラソウなど、他の市町の特色にも興味を持ってもらえるのではないかと。
- ポータルサイトについて、基本的には関係者間のリアルタイムの情報共有という形での運用を検討しているとあるが、これを一部だけでも一般向けに公開することは考えているのか。
- コロナ禍が終息していくと共にインバウンドが増えているが、非常に日本的風景を持つ荒川流域にはなかなかインバウンドが訪れない。短期的な対策は難しいと思うが、長期的な視野でインバウンドを迎える方法を考えるのもよいのではないかと。
- 子どもからの生きものに関する相談については、環境科学国際センターでの研究員に相談する機会(年数回)の利用を促すことや、自治体からの相談であれば子どもたちの夏休みの宿題の手伝いなどを行ってきた実績のあることも動物自然公園ができる限り対応することも可能である。
- 鳥類の祖先は恐竜であることなど、話題を派生させて多様な角度から子どもたちの興味を引いていくのもよいのではないかと。
- 流域共通マップにある特産物・観光スポット情報はこちらだけで提供するのではなく、一般の方も情報提供していただくことで、サイトの価値が上がっていくような運用ができるのではないかと。
- 流域共通マップには生きものの生息地などの情報も確認できるものがあると良い。
- 缶バッジのデザインを活用し、5市町を周遊する企画(スタンプラリー等)を立てるのも面白いかと思う。